

<入間川流域緊急治水対策プロジェクトのとりまとめ、公表までの流れ>

○令和元年11月12・14日

荒川水系(埼玉県域)大規模氾濫に関する減災対策協議会(第6回)において、入間川流域部会の設置

○令和元年12月11日

第1回 入間川流域部会開催
・ 中間とりまとめ(素案)
・ 流域対策、ソフト対策の課題 等



○令和元年12月24日

第2回 入間川流域部会開催
・ 中間とりまとめ(案)
・ 今後のスケジュールについて 等



○令和元年12月26日

⇒入間川流域緊急治水対策プロジェクト(中間とりまとめ)記者発表

○令和2年1月24日

第3回 入間川流域部会開催
・ 最終とりまとめ(案)
・ 今後のスケジュールについて 等



○令和2年1月31日

⇒入間川流域緊急治水対策プロジェクト記者発表

入間川流域部会の構成

- 川越市長
東松山市長
坂戸市長
川島町長
埼玉県 危機管理防災部長
埼玉県 県土整備部長
気象庁 熊谷地方気象台長
国土交通省関東地方整備局 荒川上流河川事務所長



記者発表資料

令和元年台風第19号を踏まえた「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」を開始します。

～地域が連携し、多重防御治水により、社会経済被害の最小化を目指す～

令和元年台風第19号において甚大な被害が発生した荒川水系入間川流域における今後の治水対策の取組として、関係機関が連携し、「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」をとりまとめました。

今後、地域が連携し、多重防御治水により、「社会経済被害の最小化」を目指します。

「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」の概要

○以下の2つを柱として取り組んでいきます。

①多重防御治水の推進

②減災に向けた更なる取組の推進

※詳細については、別紙をご覧ください。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 埼玉県記者クラブ 神奈川建設記者会
さいたま市地産記者クラブ さいたま市地産記者クラブ 川越新聞記者会

問い合わせ先

荒川水系(埼玉県域)大規模氾濫に関する減災対策協議会
(入間川流域部会) 事務局

国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所 副所長 荒木 茂 (あらき しげる)
荒川緊急治水対策推進室 室 長 米沢 拓繁 (よねざわ ひろき)
防災情報課 課 長 林 健二 (はやし けんじ)

①多重防御治水の推進に関すること
TEL 049-246-6360 FAX 049-243-9070

②減災に向けた更なる取組の推進に関すること
TEL 049-246-6384 FAX 049-243-6078

入間川流域緊急治水対策プロジェクト

～地域が連携し、多重防御治水により、社会経済被害の最小化を目指す～

川越市 東松山市 坂戸市 川島町 埼玉県 気象庁熊谷地方気象台 荒川上流河川事務所

○令和元年台風第19号において甚大な被害が発生した、荒川水系入間川流域における今後の治水対策を関係機関が連携し、「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」としてとりまとめました。

○国、県、市町等が連携し、以下の2つの取組を実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指します。

①多重防御治水の推進(関東治水システムの踏襲)

【現状 (before)】

・ 直轄ダム、遊水地なし

・ 主に河道で洪水を処理

【今後 (after)】

・ 河道の浸下能力の向上

・ 遊水・貯留機能の確保・向上

・ 土地利用・住まい方の工夫

②減災に向けた更なる取組の推進

<課題>

同時多発的な被害発生により、情報伝達・避難行動が円滑に進まない

状況把握、情報伝達、避難行動が円滑に進まない

体制等の充実を図る

<主な取組メニュー>

○重要区画における情報の伝達方法の選択及び防災情報の共有化のための取組

■自治体との光ケーブル接続

■治水、決壊を検知する情報の開発・整備

■危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置

○関係機関が連携した水害に対する要配慮者のための取組

■台風の19号の課題を受けたタイムラインの改善

■他機関・民間施設を含めた避難場所の確保

■講習会等によるマイ・タイムライン普及促進

■広域避難計画の策定

■水のう等、水防活動資材の確保

■緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施、排水ポンプ車の配備

■防災メール等を活用した情報発信の強化

■防災行政無線の戸別受信機整備

入間川流域における浸水被害状況

川越市 東松山市 坂戸市 川島町 埼玉県 気象庁熊谷地方気象台 荒川上流河川事務所

○国、県、市町等が連携し、以下の2つの取組を実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指します。

【参考】『多重防御治水』とは

①河道の流下能力の向上による、あふれさせない対策
②遊水・貯留機能の確保・向上による、計画的に流域のための対策
③土地利用・住まい方の工夫による、家屋浸水を生じさせない対策

- ・直轄ダム、遊水地なし
- ・主に河道で洪水を処理

関東管内で決壊が
生じた河川の共通点

河道の流下能力の向上、遊水・貯留機能の確保・向上、土地利用・住まい方の工夫を組み合わせ対応

三位一体の対策

1

河道 の流下能力の向上

- 河道内の土砂掘削、樹木伐採による**水位低減** ➡ 河道掘削約110万m3他
○堤防整備（掘削土を活用） ➡ 堤防整備約7.3km他

2

遊水・貯留機能の確保・向上

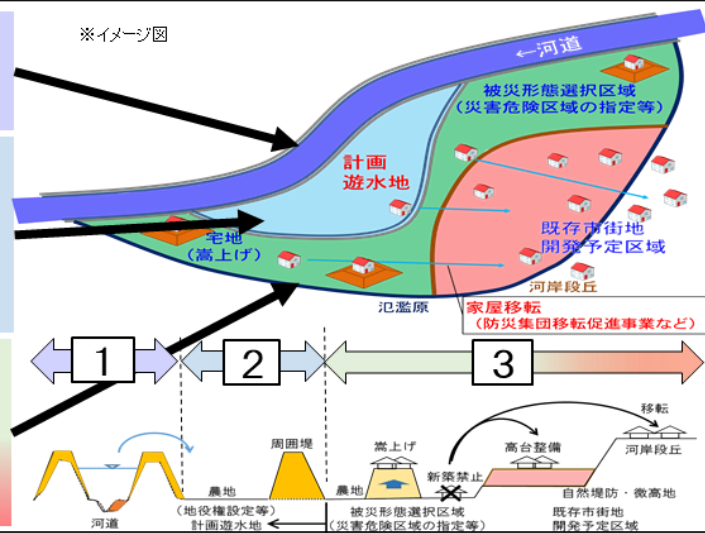
- 地形や現状の土地利用等を考慮した**遊水地の整備** ➡ 遊水地暫定整備 2箇所
※外水（国管理河川・県管理河川など）、内水の両方に対応する遊水地
（（仮称）**ハイブリッド型遊水地**）を検討
○既存ダムの洪水調節機能強化

3

土地利用・住まい方 の工夫

- 浸水が想定される区域の**土地利用制限**（災害危険区域の設定等）
- 家屋移転、住宅の嵩上げ（防災集団移転促進事業等）
- 高台整備**（避難場所等に活用）
- 土地利用に応じた**内水対策の検討**（雨水流出抑制対策、合流点処理検討等）※各地域の特性に合わせた取り組み

※イメージ図



同時多発的な被害発生により、情報が膨大となり、状況把握・情報伝達・避難行動が円滑に進まない

関係機関等が連携し、円滑な水防・避難行動のための体制等の充実を図る

■自治体との光ケーブル接続 ■越水・決壊を検知する機器の開発・整備 ■危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置

■台風第19号の課題を受けたタイムラインの改善

■講習会等によるマイ・タイムライン普及促進

■要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進

■防災メール等を活用した情報発信の強化

■他機関・民間施設を含めた避難場所の確保

■広域避難計画の策定

■緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施、排水ポンプ車の配備

■防災行政無線の戸別受信機整備 等



入間川流域における浸水被害状況

※事業の進捗状況により掲載内容は適宜更新されます



荒川上流河川事務所ホーム > 事務所の取組み > 治水 > 入間川流域緊急治水対策プロジェクト

入間川流域緊急治水対策プロジェクト



→ [入間川流域緊急治水対策プロジェクトの概要【R2.4.10更新】](#)

R1台風19号により甚大な被害が発生した入間川流域の緊急治水対策概要

本プロジェクトの内容を掲載しています

→ [入間川流域緊急治水対策プロジェクトの概要\(関係資料等\)【R2.3.27更新】](#)

本プロジェクトに関連する資料及び関係情報のリンク集

本プロジェクトに関連する資料及び関係情報のリンク集です

→ [多重防御治水の推進に向けて\(プロジェクトの工事状況報告\)【R2.5.19更新】](#)

本プロジェクトに関連する工事情報

本プロジェクトの工事内容及び工事実施状況写真を掲載しています

→ [減災に向けた更なる取組の推進\(ソフト対策の取組\)【R2.3.27更新】](#)

本プロジェクトで推進するソフト対策の情報

本プロジェクトにおけるソフト対策情報のリンク集です

→ [沿川市町の自治会、お住まいの方々等の説明資料](#)

本プロジェクトに関し、地域の方々へ説明をした際の配付資料

これまでに実施した地元説明会及び説明会での配付資料を掲載しています

→ [入間川流域緊急治水対策プロジェクトかわらばん【R2.5.20更新】](#)

地域の皆様に本プロジェクトに関する様々な情報をお伝えしています

かわらばんを掲載しています。4市町、県、気象台にも設置に協力していただいています

→ [入間川流域緊急治水対策プロジェクトの現地説明状況【更新中】](#)

本プロジェクトに関する現地見学会等での説明状況

本プロジェクトにおける現地説明状況を掲載予定です

工事状況報告の例

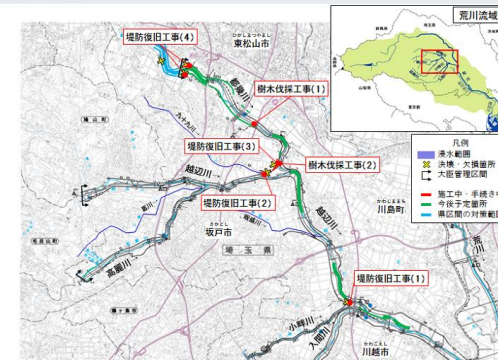
治水

入間川流域緊急治水対策プロジェクト

多重防御治水の推進に向けて(プロジェクトの工事状況報告)【R2.5.19更新】



本プロジェクトに関連する工事情報

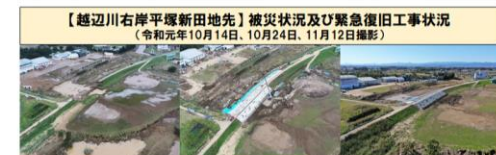


治水

入間川流域緊急治水対策プロジェクト

多重防御治水の推進に向けて(プロジェクトの工事状況報告)

R1越辺川右岸平塚新田緊急復旧工事



越辺川右岸平塚新田 工事進捗状況

令和2年5月18日(月) 上流側より



川越市長 川合 善明

河川に囲まれている川越市にとって、河道掘削、堤防整備による「流下能力の向上」や「越水させない対策」は、大変心強い取組です。特に、流域の対策として検討するハイブリッド型の遊水地は、予定されている地域の内水を積極的に受け入れ、地域の内水浸水被害を軽減できるよう国へ特段の配慮をお願いしたい。また、ソフト対策として、水位情報の共有や避難情報については、国、県、市町の連携が重要であると考えているので、引き続き国、県の協力をお願いしたい。



東松山市長 森田 光一

堤防の決壊箇所を含め、一歩踏み込んだ形の具体的なプロジェクトを作成いただき、大変心強いと思っています。プロジェクトに沿って概ね5年間で河川の治水安全度を上げ、洪水から地域住民を守る施策を強力に推進いただくと共に、緊急的な対応が必要な箇所については梅雨時期前までに対策をお願いします。今後、堤防整備等様々な工事が始まりますが、市は事業推進に向け全面的に協力し、国・県との連携のもと、人命を最優先として災害対策に全力で取り組みます。



坂戸市長 石川 清

私は幼いころから川の近くに住み、身近な存在であるが、今年の台風第19号では、堤防の決壊等により、3,700人弱の市民に避難いただくような、大きな浸水被害が発生してしまった。今後も昨年のような状況を想定していかなければならない。河川整備は、もう一度基本から検討いただく段階にあり、プロジェクトにある遊水地については、内水対応にも有効であると考えられるので、河川管理者である国、県にはこれらのハード対策を中心に、プロジェクトを速やかに推進いただきたい。坂戸市としても、昨年は排水ポンプ車の配備等の対応をしたが、今後も、国、県に頼むだけではなく、市でもできることはやっていきたいと考えている。



川島町長 飯島 和夫

早急なプロジェクトをとりまとめていただき感謝いたします。周囲を河川に囲まれた我が町の治水対策は最も重要な施策であります。特に、堤防の強化をはじめ、河川の流下能力を向上させるための河道内の樹木伐採や土砂の掘削については、早急に進めていただきたい。また、土地利用として位置づけ、当町に整備を予定している高台避難所については、一日も早く整備できるよう国と一体となって進めたい。



熊谷地方気象台長 桜井美菜子

令和元年台風第19号による記録的な大雨。地球温暖化の進行が懸念される今、再び大雨とならない保証などありません。「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」は、こうした時代に文字通り「地域が連携」し「多重防御治水」により「社会経済被害の最小化」を目指すものです。プロジェクト推進のため、熊谷地方気象台はより正確できめ細かな気象情報を、必要とされている方々へ過不足なく適時にお届けすべく、全力で取り組んで参ります。